

## ＊あなたは どうする？

哲学者であり心理学者でもあるウィリアムジェームズは次のような言葉を残しています。

心が変われば 行動が変わる。

行動が変われば 習慣が変わる。

習慣が変われば 人格が変わる。

人格が変われば 運命が変わる。

学校生活において学習面以外のことも学ぶことはたくさんあります。どんどん吸収して内面の成長に繋げましょう。また、大事な場面で力を発揮するには日々の積み重ねも重要です。“その時になればする”、“その時はできる”といった考えではなく、いまのうちから小さなことでもコツコツやっておきましょう。それがいつか必ず自分のためになります！！



### 大塚SCの心理学のおはなし その4

#### 「 外発的動機はなぜ備わったのか 」

前は、内発的動機づけが人類の進化にとっても重要な心的機能だったであろうというおはなしをしました。では、自分からではなくまわりから指示されて行動を起こすという外発的動機づけは重要ではないのでしょうか？一般には外発的動機づけによる行動は長続きせず成果も内発的動機づけによる行動に比べ劣ると言われています。わたしたちは、役に立ちそうもないことはやらないですよ。でも、本人にとっては役に立ちそうでないと思っていることも、他人や特に年長者から見ると大事なことって多いわけです。一見つまらない反復練習や丸暗記といったことはなかなか内発的にはできませんが、外発的につまり強制的にやらされることは多くあります。この学習のように、実は大事なことをみなさんはたくさん経験しているのではないのでしょうか？外発的動機づけもやはりわたしたちの進化に必要な重要な心的機能と言えます。

#### 8月～9月のスクールカウンセラー来校日

8月26日(月)13:30～16:30 9月2日(月)・10日(火)・18日(水)・24日(火)13:30～16:30

#### 学校外の電話等で相談ができる機関

24時間子供SOSダイヤル(親子ホットライン) 0120-0-78310 なやみおろ(通話料無料)

メール相談 soudan@news.ed.jp (無料)

SNS相談「スクールネット@伝えんば長崎」(LINE・web) ※24時間対応(土日含む)

[https://www.tsunasou.net/notice\\_report\\_form/nagasaki/index](https://www.tsunasou.net/notice_report_form/nagasaki/index)

長崎県子ども・若者総合相談センター「ゆめおす」 095-824-6325 (10:00～22:00 日本祝休み)

yumeosu@n-kodomo-wakamono.jp

裏面も読んでください！！

「DV防止教育 ジェンダーについての見識を広げよう」

# DV 防止教育 ジェンダーについての見識を広げよう

毎年本校では2学期にDV防止の講師の先生をお迎えして「対等な関係をつくるために」というテーマで講話をしていただいています。今年度は1年生を対象に予定しています。(2・3年生は昨年度実施)最近では日常生活の様々な場面でジェンダー平等が取り上げられることも増えていますが、将来のために高校生のみなさんもジェンダーについての見識を広げていきましょう。

✿長崎新聞 令和6年4月3日の記事より

## 学校・職場編

「あなた」は  
考える  
国際女性デー

(1)

国際女性デー(3月8日)に合わせ、長崎新聞社の双方向型報道窓口「ナガサキポスト」では、性別を理由にした先入観に接して「生きづらさ」を感じる人たちの声を募集した。学校や会社、家庭、地域、趣味の場面で抱いた「もやもや」と、その意味を研究者の見方を交えて考える。

## 男子がリーダー、女性はお茶くみ…

### 性別に由来する生きづらさ (抜粋)

学校	職場
男子だけ更衣室がない	クレーム対応を男性同僚が対応したら相手がすんなり落ち着いた
女子学生だけ男性の先生から特別扱い。先生の質問に答えられないと男子は責められるが、女子は責められていなかった	営業成績が良いと「女の武器を使ったか」とやっかみを受け、反論するのもバカらしくて男性同僚よりも成績を上げることを選んでいた
小学校の性教育は女子だけが受けていた。PMS(月経前症候群)など男子にも聞いてほしい	上司が退職するときの花束贈呈役、写真撮影は主役の職を薦められた。断るほどでないが気持ちの良い状況でもない
仕事に性別は関係なさそうなのに、なぜ女子がマネージャーを担当することが多いのか。同性の方が相談しやすいこともあるのでは	男性職員の「女性がいると子どもの都合で早退や欠席されて残った職員の負担がかかる」という発言。あなたの奥さまも同じ思いをしているかもしれないのに
小学生のころ、運動会の応援団長になりたかったのに「剛年男子がやってくるから」という理由で諦めるよう諭された	この会社ではこうあるべき、この歳になったら昇任しなければならぬという見えないプレッシャー

「性別で分けられない名簿は、1999年の男女共同参画社会基本法の施行以降、県内でも広がり、公立高で2020年度、公立小中学校では23年度、導入率が100%に達した。それでも、回答者の中に過半数は、去の苦い記憶になっている模様。生徒会長や応援団長などの多くの男だった点への疑問も目立った。キャリア研究所(福岡市)代表 影響を及ぼすとみる。

## 「無意識の偏見」に意識を

まへのお茶だし」は女性の仕事といわれていたが、手が空いている人がすればいいのでは。」  
働く女性が接客や清掃などの補助的役割を求められたり、暗黙の了解のように担ったりしたという意見が、20、70代の幅広い年代から25件が寄せられた。

これも「女性はこうすべき」「男性だから」というイメージが刷り込まれた言動の一つで、園田さんは「育った環境や学校での経験の影響で、性差による役割分担意識が潜在的に固定化されている」と指摘。こういった言動は無意識に相手を軽く扱った態度や発言になり、個人の仕事へのやる気をそぐことにつながる。

園田さんによると、ある企業で「女性には結婚するかもしれないから」という理由で、本人が希望していた海外勤務を前期の男性に任せ、女性社員が「この会社において先がない」と退職した例があった。

男性より営業成績が良いとやっかみを受けるため「成績を上げることが意図的に避けていた(40代女性)。性別や勝手な思い込みを理由にチャンスを取られ、結果的に「組織の発展にもネガティブな影響を与えてしまっている(園田さん)。

「育った環境の中で価値観は培われる。それをなくしていくのは無理」。園田さんは、人それぞれの価値観の違いを踏まえた上で「無意識の偏見にまずは意識的に気づくことが大切。まずは自分も持つ、という認識を持つ必要がある」と指摘。誰もが持つ、という偏見や思い込みを気づき、自らかき分け意識を向けようとする必要がある。

(柴崎優衣)

